

日本芸能史入門b

—芸能美意識をさぐる—

(1年 後期 2単位)

田中英機

授業のテーマ・目標

歌舞伎、文楽、能楽、雅楽、邦楽・邦舞や民俗芸能など日本の伝統芸能が生まれ育ち成長していく過程をさぐり、その特質・特性を考え、日本人の美意識や価値観を再発見、再認識する。

授業の内容

- 古代文学（記紀、万葉、風土記等）とアイヌ民族の歌舞に、呪術から芸術への萌芽、芸能の発生を読みとる。
 1. 神話のなかの歌舞
 2. 俳優（わざおぎ）と乞食者（ほかいびと）
 3. 遊女と傀儡（くぐつ）の芸能
- 日本の縮図・沖縄。その歴史と民俗の中に日本の芸能の原風景をさぐる。
 4. 神と神を祀る者の歌舞
 5. 「村遊び」と琉球宮廷の芸能
 6. 伊江島の組踊「忠臣蔵」
- 民俗芸能から舞台芸能への展開を「翁と三番叟」をテーマに考える。
 7. 長野県「新野の霊祭り」の翁たち
 8. 能「翁」
 9. 人形芝居、歌舞伎の翁芸
- 舞台芸能や民俗芸能の中の〈道成寺物〉をみることで、芸能伝承と伝播の理法を発見する。
 10. 能「道成寺」
 11. 青森県「下北の能舞」の鐘巻
 12. 琉球組踊「執心鐘入」
- 能・狂言および文楽、歌舞伎の作劇法と演出法を考える。
 13. 能「井筒」、狂言「宗論」の作劇法
 14. 文楽、歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の演出法
- 日本芸能史の独自性と普遍性、芸能文化史の位相、隣接諸学との連携など。
 15. 日本芸能史研究の現状と課題（全体のまとめ）

準備学習

毎回配布する資料・プリントを次回授業までに読んでおくこと。

テキスト・教材

折口信夫『日本芸能史六講』（講談社学術文庫）

世阿弥『風姿花伝』（岩波文庫）

そのほかは授業中に指示する。資料プリントを適宜配布する。

成績評価の方法・基準

期末試験（50%）、随時小レポート（30%）、平常点（20%）で評価する。

参考書

三隅治雄『日本舞踊史の研究』（東京堂出版）

講座日本の伝承文学第6巻『芸能伝承の世界』（三弥井書店）

注意事項

劇場・ホール等に足を運び、また、近隣の祭りと芸能の見学を心がけ、これもフィールドワークと心得て、芸能体験レポートを提出する。10月に国立能楽堂公演を見学する（入場料・交通費等要実費）。